

2024年度 メリー★ポピンズ東神奈川ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2024年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子どもが、遊びと生活の中で感じたことを自由に表現でき、やってみたいと感じたことに自らチャレンジできる安心した環境で過ごすことをねらいとして園運営を行った。子どもの姿とスタッフの関りを振り返る中で、「自分で考えて行動しする力＝にんげん力」が徐々についていることを、子どもの姿から感じ取れる。

次年度は、就学またその先を見据えて逆算し、必要な体験や育ちができる具体的な計画のもと、園運営を実施していく予定。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	安心・安全な保育の提供（子どもの尊い命を預かる場所であるとともに、子どもが生活の大半を過ごす場所であることを常に意識し、必要な話し合い・環境設定・研修等を実施し、より安心・安全な質の高い保育を提供する。）
	実践結果	ヒヤリハットを共有することで子ども一人一人の特性や成長過程を丁寧に把握し、かつ安心・安全な保育実施を行うことができた。
	次年度方向性	「命があるからこそ育ちがある」ということを全スタッフが理解・認識しながら保育実施できるよう、研修・育成を継続していく。
2	計画・ねらい	6つの力と10の姿の体得（子どもの育ちに見通しを持ち、子どもに必要な経験ができるよう保育計画を立案・保育の実施・振り返りを行う。また、スタッフの学ぶ機会を年間通して組み込み、スタッフのスキルや質の向上を図る。）
	実践結果	スタッフが、毎月1回「子育ての質を上げる会議」に参加し、その会議内容をもとに園スタッフ全員で「10の姿の理解→エピソード共有→保育計画→保育実施→振り返り」を行った。
	次年度方向性	振り返りを強化し、何が必要かを思考・分担し、スピード感をもって保育環境の構成を行うことができるサイクルを整える。
3	計画・ねらい	「自ら考え、学び、動く」主体性を育む（自分の気付きや発見を大切に、自分の思いを互いに伝え合う場や、興味を自ら広げることのできる機会を全ての子どもに保障する。多様性や互いの思い・挑戦を認め合い、子どもも大人も安心してチャレンジできる環境作りを実施する。）
	実践結果	子どもの言動を観察し、主体性を育むためにスタッフのどんな関りが必要かを園会議にて年間を通じてディスカッションした。
	次年度方向性	保育園は子どもたちにとっての生活の場であることを今一度全スタッフが理解し、子どもたち自身による自治的な営みができるよう、「大人主体に

		なっていないか」常に自分たちの行動を振り返り、子どもへの関りひとつひとつに意味・意図を持ち保育を行う。
--	--	---

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育ての苦労や楽しさ、成長の喜びを共にする存在となる（保育所は子どもが生活の大半を過ごす場所であることから、スタッフは保護者の悩みに寄り添い、自分ごととして捉えることを意識する。また、園・家庭での様子を共有し合い、子育ての大変さや楽しさ、成長の喜びを共にする存在となることを、スタッフ全員が一丸となり子育てにあたる。）
	実践結果	今年度より、タイムラインに加え玄関のホワイトボードに写真を掲示し子どもの様子を共有した。これにより、保護者との対話のきっかけとなり、また保護者同士・親子・子ども同士での対話も生まれていた。 お迎え時に子どもの様子を伝えきれないこともあるため、個人面談や保育参加を呼びかけ、園での子どもの様子を伝える機会を提供できるようにした。
	次年度方向性	子育てのパートナーとして、また子どもも親もスタッフも共育ちできるよう、保護者支援の在り方や質を検討していく。
2	計画・ねらい	園生活を通して、子どもが何を学び、どのような育ちが広がっているかを伝える（お迎え対応時、タイムライン投稿時に、ただその日の活動を伝えるだけでなく、子ども同士の関わり・変化・成長等を丁寧に伝達・投稿し、園での活動を通して、子どもが何を学び、どのような育ちが広がっているのかを知っていただく。）
	実践結果	活動内容だけでなく、どんな様子で、どんな成長・育ちが見られたか、等を伝えられるような発信（タイムライン、連絡帳等）を行った。
	次年度方向性	タイムラインや連絡帳、お迎え伝達内容の向上を継続して行う。また、保育参加や個人面談については随時実施していることを再度周知し、子どもの成長を伝える機会の設定に繋げる。
3	計画・ねらい	子育てを保護者とともに行う（どろんこサポーターの募集及び行事等への参加を呼び掛け、保護者と保育所が共に取り組むことで、互いの経験・学びとなる場を提供する。）
	実践結果	どろんこサポーター募集の呼びかけ・内容の周知機会が少なく、園と保護者また保護者同士で何かを実施する機会の提供ができなかった。
	次年度方向性	年度初めや行事の前など、どろんこサポーター募集の案内を実施し、園と保護者・保護者同士の繋がりによる互いの経験・学びの機会を提供する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園 （勝手籠の設置及び、園見学・青空保育・おはなしかご・どろんこ祭り・運動会等、園を知ってもらう機会及び事前周知・情報発信を計画的に実施する。担当部署の設置。）
---	--------	--

2	実践結果	勝手かご利用頻度および園見学数は多かったが、その他ちきんえっぐ活動への参加が少なかった。
	次年度方向性	まずは園の存在を知ってもらえるような広報計画を立案・実施する。商店街ツアーや日々の散歩時の挨拶等を通じて、親しみのある園を目指す。
	計画・ねらい	地域の身近な施設との交流 (商店街ツアー、シニア交流、世代間交流等を計画的に実施し、地域の身近な施設との交流を通して、地域と密に関わる保育所を目指す。)
	実践結果	近隣の施設への訪問を通じて、子どもたちが職業を知る・物流を知る機会となった。一方、都合により計画したものが実施できないことがあった。
	次年度方向性	引き続き身近な施設との交流および訪問を通じて、子どもたちが社会と触れ合う機会を創出し、様々な職業を知る・社会の一員であることを感じる等の経験ができるよう、次年度の計画立案およびスタッフ分担を行う。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「自ら考え、学び、動く」主体性のある人間 (気付きや課題を捉える目を持ち、できていないことがどうしたらできるか、より良くするため何ができるかを自ら考え実践し、振り返ることができる機会の設定。及び、互いの意見や多様性を認め合いながら、保育所が目指す方向に向かう取り組みを提案できる機会の設定。)
	実践結果	スタッフひとりひとりが多くの気付きを得ていた一方、気付きから行動に繋がらない場面があった。
	次年度方向性	得た気付きを昼礼や園会議にて園スタッフに共有し、アクションに移す回数を増やす。(いつ・誰が・何を・どうする まで会議内で決定できるようなファシリテート)
2	計画・ねらい	研修の受講及びMBOの定期実施(個人)※施設長主任含む (スタッフが学びたい分野の研修受講機会を確保するため、年度始めに受講希望分野のヒアリング及び施設長主任はシフト調整を行い、スタッフの学びの機会の確保とスキル向上を図る。また、施設長主任はスタッフ自ら日々の目標と行動計画を立てて働くことのできるよう、MBOの振り返りを定期的実施する。)
	実践結果	スタッフ自ら研修受講していた。MBO振り返りについては、最低限の回数の実施となった。
	次年度方向性	引き続き、施設長は、スタッフが学ぶ機会を持てるよう適宜研修案内を掲示・周知する。MBOについては指定の面談に限らず、常に意識しながらスタッフと対話し、スタッフの育成およびスキル向上を図る。
3	計画・ねらい	園内研修の実施(全スタッフ)※施設長主任含む (前年度の課題及びスタッフ個人の課題・園の課題を踏まえ、必要な研修、講座、ディスカッション等、アウトプットする機会を設定する。また、施設長主任は、上記がスタッフの成長に繋がることを認識し、必要なサポートを実施する。)
	実践結果	毎月の園会議では、主に施設長・主任が園の状況に応じた議題内容を検討・実施した。スタッフ個人による提案・研修報告等の機会が少なかった。

	次年度方向性	次年度の園内研修ではスタッフによる提案を取り入れられるよう分担する。
--	--------	------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑からはじまる食の循環 (農業計画を元に、畝づくり・種まき・水やり・草むしり・収穫・調理まで実施する。土に触れることで免疫を高め健康な身体を育てるとともに、水やりや草むしりなどしなくてはならないことを学ぶ・収穫する喜びを味わう・収穫した食材を調理加工することで、食の循環を知る機会を提供する。)
	実践結果	土の質が悪く、年間を通じて作物の成長が悪く、農業計画通りの収穫ができなかった。収穫できたものについては、できるだけその場で調理して味わい、子どもたちが自分で育てた作物を収穫する喜びや様々な食材を味わえるようスタッフ間で連携した。
	次年度方向性	畑研修を実施し、課題である土の質の改善を子どもたちと一緒にやり、子ども・スタッフともに畑仕事を実施していく。
2	計画・ねらい	環境課題を自分ごととして考える力を育む (毎日食べている給食の作り手である栄養士と連携し、子どもと一緒に給食残渣をコンポストに活用及び畑に再利用することで、自分たちが食べ残したものの行方や環境への関心を育む。)
	実践結果	食の循環を知る(魚を捌く)活動を通じて、自分たちが日々食べているものはどこから来るのか、いただきますの意味等を学んだ。職の循環を理解したことで、食べ残しがないようにおかわりの量を調整したり、残渣の量に興味を持ち、スタッフと一緒に軽量し、残渣が減っていくことに喜びを感じている子どももいた。
	次年度方向性	自分たちが食べているものは命であり、様々な人がかかわっていることを知る機会を引き続き提供していく。

〈6〉変化・成長し続ける場所であるために

1	計画・ねらい	みんなでチャレンジ(子ども・スタッフ) (子どものにんげん力を育む為には、大人のにんげん力が必要不可欠である。そのため、まずはスタッフが様々なことに挑戦することで、変化・成長を楽しめる場が保育所であることを目指す。)
	実践結果	リズム体操のピアノや園会議でのさくらさくらんぼリズムの講義など、特に若手スタッフの挑戦が多く見られた。
	次年度方向性	挑戦する機会を自ら作ること、また与えられた機会についても積極的に挑戦することができるよう、引き続き互いの挑戦を尊重・見守り合う風土を形成していく。
2	計画・ねらい	約束を守る(スタッフ) (何事にも意味・意図があることを理解する。マニュアルや締め切りなどを守り、一人ひとりが円滑に業務を行うことで、より良い保育を行うために必要なことに注力できる体制をスタッフ一丸となり整える。)

	実践結果	意味・意図については理解しながら業務遂行している。一方、タスク管理については締め切りを過ぎるスタッフもいた。
	次年度方向性	人から教えられる（人に教える）だけでなく、自ら思考する（思考できるように導く）機会を増やし、質の高い育成を行う。タスク管理については、スタッフ一人一人が個のタスク・全体のタスクを見渡し、見通しをもち、チーム全体で業務遂行できる体制を整える。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4～9月	-	42人	37人	36人	30人	42人	187人
年度後半： 10～3月	-	42人	42人	40人	30人	42人	196人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	199 人	183 人	177 人	188 人	155 人	157 人	182 人	184 人	189 人	186 人	167 人	186 人	2153 人
うち0 歳児	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（解説）0歳児預かりなし／3月は見込み数値

〈2〉開所時間

平日7時00分～20時00分（土曜はP'sスマイル保育園にて合同保育）

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務	0人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に関わる報告及び検討、園内研修
給食運営会議	月1回	食育、アレルギー対応、コンポスト
事故防止委員会	月1回	事故、怪我の未然防止を目的とした報告及び検討
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもの支援計画
昼礼	週1回	業務連絡、クラスの子どもの情報を他クラス担任と情報共有及 びディスカッション

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健計画、衛生に関する定期点検を実施した。
安全対策係	施設内外の設備管理、点検、事故防止に関する検討を実施した。
防火管理者	防火管理に関する訓練及び定期点検等を実施した。

食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応、スタッフへの指導を実施した。
畑係	農業計画に基づいた活動の実施、畑・コンポストの管理を実施した。

※その他、園運営を円滑に行うための職務分掌を実施した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園舎内及び園庭を使用し実施した。昨年度より地域の親子の参加が多く、地域支援の一環となった。
運動会係	神奈川小学校の体育館を借りて実施。暑さ対策は次年度への課題となったが、親子ともに体を動かして楽しむ機会、また子どもの成長を伝える機会となった。
生活発表会係	子どもの好きな遊びと普段の園生活の様子を見てもらえるような内容を充実させたプログラムに変更。成長した様子が伝えきれなかった部分については、次年度への課題とする。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・特になし
保育参加	4～3月まで 合計4名 が参加済み （3月1日時点） ・園での子どもの様子を知っていただく
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計5名 が参加済み （3月1日時点） ・園での子どもの様子の共有、園でのケガ対応について
運営委員会	運営委員会を6月14日、11月8日に園内にて実施し、参加した保護者5名 詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食への意欲を育てる（戸外活動の充実・畑活動・収穫した食材の調理加工・子ども自身による盛り付け・配膳を通して、食への意欲や様々な食材等への興味関心が育まれるような活動を実施する。月1の給食運営会議でも振り返りを実施し、食への意欲を育てるために必要な物事を検討する。）
	実践結果	毎月の給食運営会議にて、様々な視点から食への意欲を育む取り組みを実施したことで、給食残渣が減り、子どもたち自身が食べ物大切さを理解し食事の配膳やおかわり量の調整をする姿が見られるようになった。
	次年度方向性	引き続き、子どもの興味関心や活動の様子を丁寧に共有し、また大人も子どもと一緒に食べることを通じて、食への意欲を育てる取り組みを実施していく。
2	計画・ねらい	命をいただく活動の実践（近隣園と協力し、生きている鶏を絞める経験を通して、命の大切さを知る機会を提供する。）
	実践結果	生きている鶏の調達および近隣園の鶏が死んでしまい、生き物として鶏とかかわる経験ができなかったため、活動内容を鶏から魚へ変更した。視覚教材を使用することで、食の循環を理解し、遊びへの展開も見られた。
	次年度方向性	自分たちが食べているものは命であり、様々な人がかかわっていることを知る機会を知ることができる機会を次年度の計画に取り入れる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月28日／11月29日に実施
歯科検診	6月19日／11月20日に園内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	・10月3日に尿検査を実施（3,4,5歳児対象） ・1月8日に園内にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	9月に手足口病、園児7名・スタッフ1名蔓延し、神奈川区へ報告
発作・痙攣等の対応	なし

エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4月19日に園内にてエピペン使用研修を計9名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ11名のうち、11名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・5月17日に園内会場にて訓練用 AED 機器を用いた心肺蘇生訓練をスタッフ計9名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ11名のうち、11名が使用可能
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動後、排泄後、また随時手が汚れた際の手洗い・うがい指導 ・マニュアルに基づく清掃・消毒の定期実施

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月25日、10月24日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月28日、11月29日 歯科健診 各年2回／6月19日、11月27日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月25日、10月24日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	環境を通した保育の実施（子どもの興味関心や発達に応じ、自ら遊びを選択し、考え工夫できるような環境を追求する。また、子どもの姿と保育者の願いを併せ、随時環境を変えていき、子どもの遊びや活動の充実を図る。）
	実践結果	子どもの興味関心は日々変化していくことを前提にし、必要な環境構成を行った。
	次年度方向性	子どもの興味関心を観察し、スピード感をもって環境の再構成を行い、子ども自ら遊びを展開する・探求する等ができるようにする。
2	計画・ねらい	子どもも大人も気持ち良く過ごすことのできる場所（保育者は、子どもと一緒に雑巾掛けや身の回りの整理整頓を行い、清潔で整った環境で過ごすことの気持ちよさを日々の園生活を通して伝えていく。また、必要なものに「いつでも・すぐに」手が届くことで、子どもの遊びの充実、及びスタッフの業務効率化を図る。）
	実践結果	朝の支度や着替え、帰りの支度をする際に、子ども自身がロッカーや身の回りの整理ができるように言葉掛けおよび援助を行った。スタッフ使用エリアについては整理整頓しきれず、まだ必要なものを探すことに時間を要することがある。
	次年度方向性	日々の生活の中で、子どもたち自身が、身の回りを整理し気持ちよく過ごす感覚が育まれるよう、朝の身支度・着替え・帰りの支度等の関りを丁寧に実施する。スタッフ使用エリアの整理整頓については年度内に実施予定。整理整頓された状態で維持できるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	施設長より、保育所は子どもの尊い命をお預かりする場所であることを、年度初めの会議にて全スタッフに伝えたことで、スタッフひとりひとりが責任をもち日々業務遂行していた。
2	実践結果	様々な状況を想定した避難訓練を実施し、子どもの安全確保及びスタッフ同士の連携、都度必要に応じた対応を行ったことで、課題発見および必要な対策を検討・実施した。
3	実践結果	全スタッフがマニュアルを理解、順守し行動するよう努めた。状況によっては臨機応変に対応および相談し、より安心安全な体制をとることができ

		た。
4	実践結果	施設長、主任が主に育成を担当した。より丁寧な保育を実施するために、次年度は施設長、主任に限らずリーダーや若手スタッフの疑問や不安を把握し、その都度解消していけるような体制を整える。
5	実践結果	インシデント・ヒヤリハットの傾向を担当係が分析、月1の事故防止委員会において全スタッフで検討することで、大きな事故や怪我を未然に防ぐことができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生の受け入れは下記の通り。また実習受け入れ先として園を知ってもらえるよう、専門学校等からの実習依頼があった際は積極的に受け入れている。実習期間中においては、実習生のねらいが達成でき、かつ保育園・保育士の仕事を知る機会となるよう、振り返りを実施した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月10日～3月6日	東京工科大学	4人	観察実習

〈3〉中高生の受入

特になし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 11名	17日 11名	21日 11名	19日 11名	23日 11名	13日 11名	18日 11名	15日 10名	20日 10名	17日 10名	25日 11名	19日 11名
10の姿研修	19日 11名	17日 11名	21日 11名	19日 11名	23日 11名	13日 11名	18日 11名	15日 10名	20日 10名	17日 10名	25日 11名	19日 11名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	22日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の方にとって親しみのある、身近な施設となれるよう、散歩時にすれ違った人への挨拶、ちきんえっく活動の計画、行事への呼び込み等を実施した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 反町公園にて 参加延べ人数: 0名
商店街ツアー	週1回 主な行き先: ジェクサー、サーティワン、おにぎりや稲丸、横浜こども専門学校、横浜リゾート&スポーツ専門学校、マルエツ、ローソン、ファミリーマート、ヤマト運輸、横浜ノースドッグ、神奈川書房局、神奈川県立金川工業高等学校等
世代間交流	月1回、ひまわり介護(老人福祉施設)にて交流を実施
異年齢交流	10月2日に幸ヶ谷小学校にて交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

5歳園児が就学予定の小学校との情報交換および、幸ヶ谷小学校との子ども間交流、職員間交流を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月11日	西寺尾第二小学校	1名	神奈川区幼保小連絡会	職員間交流
7月25日	幸ヶ谷小学校1年生	1名	年間カリキュラムの共有	職員間交流
10月2日	幸ヶ谷小学校1年生	19名	授業体験、校舎内探検	子ども間交流
1月24日	幸ヶ谷小学校3年生	1名	公開授業	職員間

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

家庭、専門機関と連携し、計画を立て、全スタッフ共通理解のもと支援にあたるよう、個別支援計画を作成・見直しを実施した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・12～3月に計4回開催 参加者：44名

児のできること、できるようになったことに主に着目しながら、苦手な部分への取り組み方、成長・変化を共有した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

5歳児就学先の小学校への自動要録送付、および電話・来訪による園児の情報共有を実施した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16名	0名	0名	45名	0名	0名	4名	4名	0名	6名	0名	0名	75名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：2名												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：反町公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年5月20日および11月11日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：15時00分

自己評価終了時刻：16時30分

自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：89.7%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ東神奈川ルーム 施設長 沖理菜